

令和3年度：iDA健康保険組合事業概要

☆食事・運動・プレゼンティズム改善のWEBサービスの展開

☆感染症をふまえたICT活用の保健指導と郵便検診の提供

☆こころとからだの元気サポートのチャットボットサービス付加

☆医療給付費の適正化と冗費の削減

☆データヘルス計画に生かす実効性が高い保健事業の検討

保険料率

一般保険料率 88.7/1,000

再掲 (特定保健料率 24.28/1,000)

調整保険料率 1.3/1,000

介護保険料率 20/1,000

- ・一般勘定収入支出予算額 8億4千529万円
- ・被保険者一人当たり 258,624円

iDA健康保険組合の令和3年度予算が、組合会において承認されました。

一般勘定の総予算規模は、対前年比2億4千137万円減の8億2千985万円となり12.94%減の予算に収まりました。

これは新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済環境悪化に起因する被保険者数減員が要因です。

高齢者医療関係拠出金の減額は、後期高齢者支援金の負担に一昨年から導入された完全総報酬制が浸透してきたことが主因と考えられます。

併せて前期高齢者納付金を下げているのは、前期高齢者の一人当たり医療費が218,807円と他の保険者と比較しても低く、併せて前々年度の確定前期高齢者納付金額の調整によるものが大きく影響しています。

さて、政府では全世代型社会保障改革の方針が閣議決定されました。

健保連においては、健保財政安定化の第一歩として期待された改革でしたが2割負担対象者が上位30%に絞られ、激変緩和措置が3年間3,000円負担に延ばされるものに着きました。

これにより、大幅な拠出金減少は望みがたいものとなりました。

健保組合の財政運営上好材料として認めがたい改革となり、後期高齢者支援金の負担増は当面続くことが予想される形として残りました。

このような状況下であります。令和3年度予算編成は、医療費支出及び拠出金の諸率が低い傾向となりましたので、保健事業の充実と効率性を図りました。

予算配分を納付金負担分から保健事業費（所要財源率10.20%）にシフトさせる予算編成となりました。

これにより保健事業費は、総額で9,402万円となりました。

体育奨励事業は、K-ポイントシステムを活用した歩数管理と二次健診受診勧奨インセンティブとして達成者及び受診者には、クオカードペイのプレゼントを併せて行います。

更に在宅ワークの増えた社員の健康サポート対策として、健保ホームページ上にRIZAP ウェルネスプログラム配信動画と健康コラムを提供します。

また、コロナ禍を睨んだ感染症対策として、特定保健指導及び疾病予防としてICTを活用した保健指導、子宮頸がん及び歯周病予防対策には自宅から検体を送付する形態の郵便検診の充実を図りました。

歯周病対策としてwebによる歯科衛生士による歯科面談を受けられるサービスも提供します。

メンタル対策には従来の電話相談にチャットボットサービスを付加した相談が可能となり、若年者が利用しやすい環境を整えました。

介護勘定に目を転じますと、令和2年度に追加更正予算を施行した結果、決算見込に剰余金が残るものとなりました。

令和3年度以降に一般勘定に戻し入れる経理処理が必要となります。

令和3年度の予算は介護納付金が、前年度対比で13,346千円減の46,830千円となったために保険料率の据置きに落ち着きました。

最後にiDA健康保険組合では、保健事業の展開の他に医療費や柔整療養費のチェック強化や無資格受診者への返還請求など冗費削減へ向け一層の努力をして参ります。

コロナ禍において不自由な毎日が続きますが、皆さま方におかれましては心身ともに健康に留意され、健康診断の適正受診を心がけていただくようお願い申し上げます。

今後も、iDA健康保険組合の健保事業運営へのご理解とご協力をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

(iDA健康保険組合：島田弘幸)